

基本方針		令和7年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)
東京文化会館の基本方針は、以下のとおりである。			
【スローガン】			
より多くの人々に集い親しまれる劇場へ　～「音楽・舞台芸術の殿堂」　＝響きあう感動をあらゆる人々と～ 開場以来60年間、「音楽・舞台芸術の殿堂」として多くの人々が当館を訪れ、愛され親しまれている。さらに、令和3年度からの指定管理期間では、培った制作力や国内外とのネットワークを生かした高い芸術性を担保しつつ、社会的課題にも取り組みながら、幅広く鑑賞の機会や若手の輩出、学びや体験の機会を提供し、あらゆる人々が感動を分かち合える劇場を目指す。			
【ステイトメント】			
○「音楽の入口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」 高水準の舞台芸術を鑑賞されるお客様を大切にしつつ、音楽・舞台芸術の素晴らしさをより多くの方々に味わっていただく。 ○「参加交流」できる「広場」となり、「社会包摂」のための「居場所」となる 乳幼児から青少年、子育て世代、高齢者までのあらゆる世代、障害者、外国人等、様々な個性を有する方々のための拠点となる。			
【方針】			
①「音楽・舞台芸術の殿堂」たる良質な公演の鑑賞機会を提供する。 ②全国の文化施設をけん引する先駆的な自主事業を展開する。 ③建物の魅力を生かしつつ、あらゆる人々が利用しやすい施設管理、機能更新を行う。			
【取組】			
①自主事業の積極的な展開 連動する創造発信、教育普及、人材育成の3本柱による自主事業の展開と国内外に向けた成果の還元 ②貸館運営 戦略的な施設の貸出による世界最高水準の公演の提供、貸館公演との連携・協力による公益事業の実施 ③音楽資料室の運営 ④総合的な機能・魅力を発信する館運営 安全・安心の施設管理と舞台運営、バリアフリー・ユニバーサル化の推進、多言語化の推進、外部資金の導入、戦略的広報の取組、館の魅力の発信力強化・充実、地域連携の取組、職員の育成、スキルアップ			
</			

基本方針		令和7年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)
1 ミッション (1)芸術文化の創造・発信の拠点 東京の音楽・舞台芸術を代表する顔として長期的な視点にたった作品創造と国内外への発信 (2)人材育成の拠点 舞台芸術の現場をささえるプロフェッショナルの育成 (3)教育普及の拠点 次代を担う子供たちへの本物の舞台芸術の伝達 (4)賑わいの拠点 芸術の香りのする、誰にとっても楽しく賑わいのある空間の創出		1 ○音楽・舞台芸術表現の可能性を探求する劇場 国内外の良質なオーケストラ公演、質の高い演奏家によるリサイタルや、新演出オペラの制作、現代音楽のフェスティバルなど、未来の音楽シーンを創造する事業を開催する。 また、芸術愛好家を満足させる質の高い舞台芸術を提供すると共に、海外著名演出家と協働するなど、現代日本を代表する優れた舞台作品を東京から発信する。	「VSピアノ」シリーズを継続的に展開するとともに、杉原邦夫演出による共同制作オペラ「ドニゼッティ/歌劇『愛の妙薬』」を東京を含む3都市の劇場で上演し、各地において高い評価を得た。 舞台芸術祭「秋の隕石2025 東京」では、芸劇オータムセクションとして、ロバート・ウィルソン演出、イザベル・ユベール主演作品をはじめ、海外の質の高い舞台作品を招聘し、国際的な芸術交流の促進に寄与した。 また、パリを拠点に国際的に活躍する演出家による『飛び立つ前に』や、国際共同制作作品『ヨナ』を上演し、当館の国際共同制作の取り組みを内外に示した。 さらに、ホリプロとの共催による『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』は国内公演後、イギリスおよびパリ等で海外公演を実施し、いずれも成功を収めた。
		評価指標 音楽界・舞台芸術界での評価(公演評での高評価、各種演劇賞の受賞など)	ロバート・ウィルソン演出作品、ダミアン・ジャレ振付作品、『飛び立つ前に』および国際共同制作『ヨナ』は、いずれも主要新聞各紙において劇評が掲載。 当館の公演事業全体の成果が、新聞各紙の年末回顧記事に取り上げられた。 さらに、森山開次は『Train Train Train』の成果により、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。
2 基本方針 (1)音楽・舞台芸術表現の可能性を探求する劇場 (2)絶えまなく力強い創造活動を行い、それを魅せる劇場 (3)若手アーティストに場所を提供し、共に創造発信を行う (4)初めて舞台芸術に触れる子供や大人にも親しめる作品の創造の提供 (5)誰もが自由に入出入りでき、一流の文化・芸術の香りを持つ劇場 (6)日常的に新しい発見に出逢うことができ、ワクワクする感性に働かせる劇場		2 ○国内外の劇場・音楽堂との交流を活性化し、国際的な舞台芸術の拠点となる劇場 「東京文化戦略2030」の「戦略3：芸術文化のハブ機能を強化」するために、海外の劇場と交流する共同事業の実施、国際共同制作の実施、海外アーティストの招聘による国際交流を行い、世界とつながるハブ拠点の役割を担う。また、国内劇場音楽堂との共同制作、芸劇企画公演の地方上演など、国内の劇場音楽堂との連携を推進する。	ルーマニア国立劇場との国際共同制作『ヨナ』は、ヨーロッパ4か国6都市および日本国内5都市でのツアー公演を実現し、国際的なネットワークの拡充を図った。 『飛び立つ前に』は、全国5都市においてツアー公演を実施し、国内各地への作品波及に寄与した。 また、『Planet』ではロームシアター京都とともに国際共同制作に参画し、日本ツアーを協働で実施するなど、国内劇場との連携強化を推進した。あわせて、国際舞台芸術祭として舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」を実施した。 人材育成事業としては、「東京演劇道場」において海外から3名の演出家を招へいし、ワークショップを実施したほか、GOAアカデミー生を対象に、フィルハーモニー・ド・パリ管弦楽団メンバーによるマスタークラスを開催した。 課題としては、国内連携において、当館が地方劇場制作作品の東京公演を支え、各地の劇場の発信力強化に貢献することが挙げられる。
		評価指標 国内・国際の共同制作事業数、海外アーティストの招聘数、地方公演の本数・公演回数	舞台芸術事業：国際共同制作2事業、海外アーティスト招聘20人、地方公演3本、23回 音楽事業：共同制作オペラ1事業、海外アーティスト招聘21人 舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」海外招聘：6作品 他：8作品 総来場者数：21,105人
3		○若手アーティストや芸術の担い手を育成し、共に創造発信を行う劇場 東京芸術劇場の音楽家育成事業、演劇人育成事業の充実を図り、休館期間中も活動を継続する。また、若手劇団や若手舞踊家、音楽大学への協力により若手アーティストに発信の場を提供する。芸劇舞台芸術アカデミーを通じた制作専門人材を育成、中高生に創作体験の場を提供するなど、舞台芸術創造のエコ・システム構築に貢献する。	芸劇舞台芸術アカデミーによる制作人材の育成、オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド(GOA)、東京演劇道場、「TMTギアー 東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト」などによりアーティスト育成を推進した。若手劇団及び若手ダンスカンパニーとの提携公演、音楽大学オーケストラ・フェスティバルを首都圏8音楽大学と2つの公共ホールが連携して開催。 課題としては、東京芸術劇場で上演することを目標にできる動員力を持つカンパニーが減少傾向を防ぐために必要な事業企画や、中高生が参加しなくなるような事業企画を検討する必要性が挙げられる。
		評価指標 芸劇eyes・若手提携事業の劇団参加数、自主事業全般における若手アーティスト参加数、GOAの依頼演奏数、人材育成事業からの劇場・オーケストラ等プロ組織への就職者数	eyes・若手提携6劇団、自主事業の若手アーティスト参加数 演劇・ダンスは25人程度。 GOAがリオープンデイに10人、サラダに10人。GOA及びGOA+の依頼演奏数32件。 アーツアカデミー終了生3人が劇場など舞台芸術関係組織に就職。 GOAから2名がオーケストラに就職。
4		○初めて舞台芸術に触れる子供や大人にも親しめる作品の創造と提供 多様な舞台作品の魅力を味わってもらえるよう、フェスティバルなどの多彩なプログラムを展開するほか、本物の舞台芸術に初めて触れる来館者も楽しめる工夫をする。また、劇場内で行われている公演についてレクチャーや楽しみ方をサポートする。	休館期間中に実施した TACT FESTIVAL では、音楽・サーカス、影絵など多彩なプログラムを劇場前広場および池袋西口公園(グローバルリング)で展開し、劇場空間にとどまらない形で舞台芸術に親しむ機会を提供するとともに、新たな観客層の開拓を図った。 劇場ツアーには延べ260名が参加し、初参加者は16.8%を占め、満足度は94.9%と高い評価を得るなど、当館の人気プログラムとして定着している。 また、「集まれ！池袋みんなの大道芸」には約12,000人が来場し、「チャレンジ広場」には373人の子どもが参加するなど、芸術文化を身近に体験できる取り組みを継続的に推進した。 さらに、『Planet』公演では10代の観客等13人が参加し、ロビーで来日アーティストの話を聞くセッションを実施するなど、若年層を対象とした鑑賞体験の充実を図った。 課題としては、より初めての来館者及び子供・若者の来館者を増やすための、企画や作品の内容及び、情報提供の方策についてが挙げられる。
		評価指標 ファミリー向けフェスティバルの演目数、はじめて来館した人数・満足度、子供・若者の参加率、満足度	「0才から聴こう!!&4才から聴こう!! 春休みオーケストラコンサート」ははじめての来場者：27% 都民音楽フェスティバル(「第22回子どもたちと芸術家の出あう街」1日・8演目、「ふれあいこどもまつり」9日・28演目) 江戸東京伝統芸能祭(「伝統芸能の「しごと」にふれる一日」)1日・2演目「こども芸能体験ひろば in ちようふ」1日・10演目) TACT計5演目(影絵、プラスバンド、サーカス、大道芸、ワークショップ) 劇場ツアー・BSツアー参加者数：260人満足度：94.9% ゲゲキャン2026：5コース・参加者：108人
5		○誰もが芸術文化に触れ、共生社会を目指す劇場 年齢、障害の有無、国籍等属性を問わず誰もが芸術文化に触れることで、高齢化や共生社会など東京の社会課題の解決に向けた「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」を推進していく。また、アクセシビリティの取組をより充実させるとともに、デフリンピック文化プログラムにも参加し障害者が創作に参画する作品を創造する。	障害のある人・ない人が等分に創作に参加した「Train Train Train」は、アクセシビリティ面でも挑戦を行い高い評価を得た。 ダンスファシリテーター養成講座「のはらカレッジ」、インクルーシブな音楽ワークショップ「ホワイトハンドコーラス」を開催。社会共生セミナーは、「サインミュージックの実践」「イタリア刑務所演劇の実践」をテーマに開催。多文化共生社会においてTBTPで作られた企画のショーケース上演を実施した。 今後の課題としては、「Train Train Train」の実績を踏まえて、どのような形で継続・発展させていくかが挙げられる。
		評価指標 社会共生事業・鑑賞サポート事業・多文化共生・人材育成系事業の件数及び参加者数、満足度	鑑賞サポート：14回、参加者数87名 「TBTP」参加者：266人(公演鑑賞245人含む) 「Train Train Train」来場者：2821人 満足度85.5%
6		○誰もが自由に入出入りでき、一流の文化・芸術の香りを持つ劇場 貸館事業や、首都圏に数多く存在する実力ある劇団や楽団・制作団体との共催・提携公演を効果的にラインナップすることにより、幅広い層に訴求するプログラムを提供する。劇場ツアーやバックステージツアー、パイプオルガン公演を低料金で実施して、舞台芸術の楽しさ、奥深さを伝え、芸術文化を身近なものにする。	音楽事業では、共催公演として読売日本交響楽団による「土日マチネー」を10回実施したほか、提携公演を13回行った。また、「都民音楽フェス」および「江戸東京伝統芸能祭」では、クラシックから伝統芸能まで多ジャンルの公演を低廉な料金で提供し、幅広い層に鑑賞機会を創出した。 演劇分野では、ホリプロ等、企画性に富む制作団体との共催により、プレイハウスにおいて多様な作品を上演し、幅広い観客層の来場を促進した。さらに、現在注目を集める若手劇団であるアンパサンド、東葛スポーツ、ダンス分野では Vonnos と提携するなど、多様性とバラエティに富んだプログラム構成を実現した。 今後の課題としては、これまで一度も劇場を訪れたことのない層にいきなりアプローチし、新たな観客として取り込んでいくかが挙げられる。
		評価指標 稼働率及び入場者総数、共催・提携公演の本数、劇場ツアー・バックステージツアー参加者数、満足度	稼働率は基準値を達成 演劇・ダンス：共催12公演 提携19公演 劇場ツアー・バックステージツアー参加者：260人 満足度：94.9%
7		○日常的に新しい発見に出逢うことができ、ワクワクする感性に働かせる劇場 劇場前広場やアトリウム、ロワー広場を活用して賑わいを創出し、将来的に地域とも連携してマルシェ(市場)の創生を目指すとともに、館の事業全体の効果的な広報展開を行いリオープン後の劇場のプレゼンスを高めていく。立教大学や、豊島区との連携事業を展開し、引き続き休館期間もSNSを活用した発信を行い地域での劇場の存在感をアピールするなど、開かれた空間を創出する。また、インバウンド向けの取組にも力を入れる。	工事休館中に開催したTACT FESTIVALでは、グローバルリングや劇場前広場を活用し、多様なパフォーマンスやキッチンカーの導入により賑わいを創出した。SNSによる情報発信や「避難訓練コンサート」の実施は、広報効果と緊急時対応力の向上に寄与した。リオープンデイでは劇場全体を使った取り組みが好評を博し、再開後も継続的な公演等により注目を集めた。一方、地域と連携した事業の推進、マルシェの定常化や、インバウンドを含む多様な層への発信強化が今後の課題である。
		評価指標 劇場のX(旧Twitter)のフォロワー数、Instagramフォロワー数、地域との連携事業数、休館期間におけるSNS等による情報発信、英語版冊子の発行、インバウンド関連団体との連携、リオープン事業来場者数	劇場のX(旧Twitter)のフォロワー数：約10万、Instagramフォロワー数：約6,100、地域との連携事業数：7事業、休館期間にX(旧Twitter)及びInstagramにて情報発信、英語版冊子は未発行、インバウンド関連団体との連携：池袋インバウンド推進協力会に継続参加、リオープン事業来場者数：22,606人
総合的な所見(自己評価の総評)			
今年度は9月5日まで緊急工事のため休館、8月28日にお客様を入れて避難訓練コンサートを実施、9月6日に「芸劇大公開！」と題して、リオープンデーを開催、翌7日には、野田秀樹芸術監督と次期舞台芸術部門芸術監督の岡田利規氏によるトークイベントを開催、2日間で延べ約25,000人が来場。エントランスにアクセシビリティ・デスクを設け、より開かれた劇場をアピールした。よりアクセスしやすい劇場を目指し、リオープンに合わせてウェブサイトのリニューアルも行った。リオープン後は、サラダ音楽祭、東京舞台芸術祭、デフリンピックの文化プログラム「Train Train Train」を上演。下期に公演事業を集中的に実施した。休館中にも、劇場前のグローバルリングシアターと劇場前広場を利用して「TACTフェスティバル」を実施、通年で行っている人材育成事業などは、豊島区の施設等、地域の会場を利用して実施するなど、計画していた事業を完遂した。17年間にわたり芸術監督を務めてきた野田監督時代の掉尾を飾り、圧力的に質の高い大規模招聘作品や、国際共同制作を行い、次代へつなぐ1年となった。新監督へのバトンタッチの準備に加え、令和9年度からの次期指定管理に向けた準備を行った。予算面では、文化庁の総合支援5年間の2年目に予定どおり採択され安定的に進行することができ、自主事業、受託事業共に収支相償を達成した。			
外部評価 評価結果		総括的な意見(総評)	
A：目標を十分に達成し、成果を上げている		○今年度は、緊急工事による休館とリオープンという経営環境の大きな変化により、常にも増して的確かつ機敏な対応が求められる中で、劇場が関わる多方面での取り組みにおいていずれもめざましい成果を挙げていることを高く評価したい。芸術監督の交代・引き継ぎを進め、多ジャンルにわたる大小さまざまな規模の質の高い公演をリオープン後の期間に集中的に実施したほか、海外招聘作品や国際共同制作で国際交流面でも着実に歩を進め、また、開かれた劇場としてインクルーシブな舞台創造や全体的なアクセシビリティの向上についても拡充に努めている。予算面でも引き続き文化庁の助成金を獲得し、安定的かつ積極的な事業展開を図っている。全体として、劇場の持っているポテンシャルを十分に活かし、望ましい成果を挙げていると評価できる。	
A：目標を十分に達成し、成果を上げている B：目標を概ね達成している C：目標を十分に達成しておらず、改善が必要である		○休館期間はあったものの、それ以外の時期における創作活動は相変わらず高い水準を保っている。 ○東京芸術劇場は池袋地域にとって、なくてはならない施設。今後の活躍に期待したい。	